

お知らせ

09月の定例活動日；9月20日（月、敬老の日）9時30分第二駐車場集合、シカ個体数調査、植生調査・食害調査、野鳥調査、ヒメコマツ植栽地管理。

活動の記録

8月18日（水曜日）晴 植物調査臨時活動 新井、坂本（文）、根本、福島、真鍋の5名。涼しい森の木陰で、植物調査を楽しみました。

朝一番、吊橋下を降りて北側斜面林の踏査、樹木もツルも日光を求めて空高く伸び、見えない葉を双眼鏡で覗いたり、ひこばえや落ち葉を探し樹皮を調べ、サルナシ、サンカクヅル、ヤマガキ、オオモミジ等次々に種名を確認。昼は標本と図鑑を詳細に照合し、種名の確定。午後は巨木林保護ネット内を中心に調査しました。

この日の調査でエノキ、シャクジョウソウなど5種が豊英島植生リストに加わり、島の累積種類数は322種になりました。8月18日現在の豊英島植物リストを添付します。（真鍋記）



天井見上げてサルナシ？ or サンカクヅル？

○植物調査

1次2次調査で記録されているものの、3次調査で未確認となっている種を重点的に探しました。樹木と草本類の何種かは保護ネットの中で生き延びていて、保護ネットの有効性を実感しました。

依然として未確認種の何種かは動物の食害や環境変化により島内では絶滅したと思われます。その一方で、ヒメコマツ植栽の為にコナラ等の高木を伐採した場所でカラスザンショウの芽生えがいくつか見付き、千年広場ではオトギリソウの小株が花を咲かせていたので、リストに加えられました。灌木や下草は色々な条件の変化により入れ替わるのが自然ではないでしょうか。個人的にはシャクジョウソウの実物を初めて見ました。豊英島ではなぜか多種類の腐生植物が見られます。（坂本文雄記）



オトギリソウ



ウメガサソウの実



シャクジョウソウ*

*シャクジョウソウはイチヤクソウ科の腐生植物で千葉県では一般保護生物（D）に指定されています。豊英島にはこのほかアキノギンリョウソウ（D）、クロムヨウラン（B）、ツチアケビ（C）など葉緑素を持たない腐生植物の自生が見られます。

毎夏探し続けてきたナツエビネも、06年以来行方不明のホウライカツラも見出せなかったのが残念ですが、成果の多い植物調査でした。

千年広場脇金網内に生き残り、実をつけていたツチアケビは何者かに実を食われ茎は枯れました。これで保護金網内のツチアケビ地上部は全滅し、巨木林調査区保護ネット内の2株だけが生き残りました。某百科事典には「果実にはかなりの糖分が含まれ、動物が摂食して種子散布している可能性もある」とあります。（真鍋記）

○野鳥調査

カワウ、トビ、キジバト、ヒヨドリ、コゲラ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、ハシボソガラス（以上10種）今回は野鳥調査の時間は設けず、植物調査と並行して出現種を記録しました。初記録はホオジロです。対岸の農耕地の方角から囀りが聞こえました。時期的に遅い囀りは2回目の繁殖に伴うものなのか、初回の子育てに失敗して再挑戦しているのか気になるところです。（坂本文雄記）